



編集委員が地域の皆さんにインタビュー!

今号は、表紙および特集と連動して、 新島小学校の河津校長先生に インタビューしました。

木村：ご家族を連れての2度目の新島村赴任となりますね。

河津：初異動で新島に6年間赴任したときのこと忘れられなかつたんです。保護者のみなさんがとても良くしてくれましたし、素直な子どもたちの存在も大きくて。それで、恩返しのためにも、もう一度新島村に赴任できないかとずっと考えていました。

木村：島ならではの子育てや教育環境はどのように感じていますか？

河津：新島村は子育てに集中できるとも良い環境だと感じます。ただ環境が良いすぎるために、問題意識、課題意識が弱いまま子どもたちが育ってしまう傾向があることは、他島でも共通の教育課題でした。大人が子どもたちに、何かし

ら外との接点や社会に接する機会を提供してあげる必要があると思います。そのうえで、子どもたちが自分から課題を見つけて欲しいと願っています。

木村：教員以外の社会人経験もある先生として、大事にしていることは？

河津：担任時代は日々の学習と社会とのつながりについてニュースなどを活用して話していました。また、ニュース発表を日直児童の役割にもしていましたね。

木村：議会だよりを読んでもう一度読んでいただけますか？

河津：読んでいます！ なかなか傍聴できないので、どんなことが話題になっているのか、教育はもちろん、島全体のことも興味をもって知ることが出来ます。

私も新島8年目、それなりの責任があるのではないかと考えています。

編集後記

改めて言うまでもなく、村政の主役は住民の方々です。意見、要望等、議員を通して、または行政に直接働きかける事により、より住みやすく、将来性豊かな新島村となります。ただし、自主財源が乏しく、歳費の9割以上を交付金・補助金に頼らざるを得ない当村にあっては、万人に満足のいく財政運営とはならず、少数意見にも留意しながら、優先順位を設けての運営となります。

今、議会では、どんな質問がなされ、執行部がどんな答弁をし、また村の課題は何で、どんな議論がなされたのか。大まかですが、公正な立場で記されたのが、議会広報である、この「議会だより」です。若者から年配者まで、講読しやすいように改善を重ねて参りますので、ご意見等お寄せいただければ幸いです。

〈前田 泉〉

広報編集委員会メンバー
委員長：小久保利佳
副委員長：木村諭史
委員：前田泉

青沼弘
前田寿夫



河津力先生プロフィール
新島小学校校長。大分育ち。母親が屋久島出身で島・海に親しむ。主な前職は建設関係の営業。通信教育で教員免許を取得し、32歳で教員になり、初異動で新島来島。平成30年度に大島から副校長として再異動し、令和元年度に校長に就任。(娘3人は当村の小中高に在籍)